

1（３）他分野との連携・融合による活動

「みのごを編む」

みのごの再生と、作業工程の記録撮影

○ 「みのごを編む」のねらいと概要

民具の一つである「みのご」は藁を利用して作られた衣類の一つとして分類される。単作水稻農業地帯である砺波地方では、すべての暮らしが米作りを中心に回っており、稲は米ばかりでなく、茎や葉にいたるまで、余すところなく使用された。当館では多くの藁製品を有するが、その製作方法を伝達する資料はなく、日常的に製作していた人々も既に去った。そこで、保有する藁製品の内、「みのご」の実物からその製作方法を類推し、実際に作ってみて、その過程を記録して残すことにした。保存している残された民具から「話」を聞き出し、当時の実際の暮らしの風景を描き出してみる試みである。点から線へ。一つの製作は、より複雑な形状の民具の作成につながっていくことが期待できる。

○ 制作過程（製作方法、内容）

①わら細作家の協力を得て、当館の保有する民具の形状を確認してもらい、製作過程のプロセスと、材料について考えてもらった。

②製作には茎丈の長い藁が必要なことが判明した。そこで、収穫を目的とせず、丈を伸ばすことに専念して材料を得ることができるということにした。→作家本人に材料を準備してもらう。

③民具を基に、新たなボータアミキを製作。ツツノコ石も準備。編み機の準備がおわる。

④藁はネゴの状態に選り、木槌で打って、扱いやすいように整える。

⑤各部品を揃えて編み始める。と同時に作業の工程を収録する。

⑥作品の完成。収録完了。

⑦収録記録を編集し、各製作場面に解説を入れて編集する。

⑧「みのご」、「DVD 記録」の完成。

